



運動器超音波診療が大ブレイクしている理由

医療法人城東整形外科 皆川 洋至 (秋田県 12 期)

毎日、何人の患者さんを診療していますか?～医者財産～

1日で258人。これは自分一人で診療した外来患者数の最高記録です。月曜日から土曜日まで毎日外来に出ますから、1年間で診療患者数は合計30,000人を超えます。1日60人、週2回外来の勤務医で年間約5,000人ですから、この診察数は“crazy!”かもしれません。しかし、多くの患者さんが教科書や論文にない情報を与えてくれますし、何より元気と活力をくれます。監督が甲子園出場の連絡をくれたり、県外へ進学した大学生が帰省して顔を出して



くれたり、親が子供の進路相談に来たり・・・仕事に関係ありませんが、こんなときは嬉しいですね、疲れが吹っ飛びます。外来患者の数だけ学ぶ機会があり、出会いがある、まさに外来患者さんは医者財産です。だから患者数が増えることは、医者にとって“蓄財”なのです。

一方、恥ずかしながら秋田県は人口減少率が全国1位です。県内の病院では外来患者数がどこも右肩下がりです。さらに、予約制外来の導入と土曜日休診が外来患者数の減少に拍車をかけています。一方的に受診機会を奪われた患者さんたちが、外来予約制をとらない病院へ押し寄せます。こうなると、もはや医療制度が作り出した医療難民と言っても過言ではありません。そんな状況も知らず、平然と「外来は面倒だからやりたくない」、「外来患者が増えると困る」などと言える医者がいます。可哀そうですが、外来患者の減少が医者にとって“散財”であることに気付いていません。

患者さんの話を聞かない!?: 瞬時に核心を掴む

「患者さんの話をよく聞く」、「問診が基本」、学生時代はそんな教育を受けてきました。偉い先生たちが言うから間違いないでしょう。しかし、予約制なしで毎日150人から200人の患者さんを診療する状況では、時間をかけ話を聞く余裕もなく次々とカルテが積み上げられます。待ち時間が長ければ、当然受付事務の子たちがクレームの嵐に巻き込まれます。自分の外来が終わらなければ看護師は家に帰れません。放射線技師や理学療法士も帰れません。当然、診療時間が長引けば職員は疲弊します。疲弊した職員だらけの病院は雰囲気が悪くなる、だから受付終了時刻の18:00と同時に外来診療を終えなければいけないのです(なかなか上手にいきませんが)。

経験が浅い医者にとって、時間をかけ患者さんの話を聞くことは大切です。しかし、時間をかけたから患者さんが満足するわけではありません。大切なのは「核心を掴む」こと。いくら知識が豊富でも、患者さんの抱える問題を把握できなければ治療につながりません。豊富な経験は、豊富な知識に勝る。圧倒的に多くの臨床経験を積み、問診票だけで多くの鑑別疾患を瞬時に想定できるようになります。いくら華々しい経歴があっても、何年医者をやっても、臨床経験が少なければ“受け身”の外来になり、“攻め”の外来はできません。

まずレントゲン？まだレントゲン！～超音波診療のススメ～

「まずレントゲン」は、整形外科診療のお約束でした。骨に異常がなければ安心？実際には骨以外に主病変がある場合の方が圧倒的に多い。レントゲンに依存した診療スタイルでは、中高年の肩痛を「五十肩」と診断します。放置しても治るから心配ない？冗談じゃありません。何年も痛みに苦しみ、何か月も眠れない患者さんが後を絶ちません。一般人の2割に発生する腱板断裂は自然修復しません。非常に強い痛みと可動域制限が生じる凍結肩は、放置した場合症状が落ち着くまで数年かかります（放置して良いわけがない）。足首を捻じて外来受診する患者は外来新患の50人に1人います。湿布・痛み止め程度しかできなければ医者としての価値がありません。高校生なら90%以上が靭帯断裂ですし、小学生なら80%がX線診断できない骨折です。初期に外固定されず不安定感が残って手術になる患者さんはたくさんいます。

現在ではX線診断できる疾患より超音波診断できる疾患の方が圧倒的に多いことが分かってきました。今では外来患者さんの6割にエコーを使いますが、X線撮影は数例、全体の1割以下です。外来でエコーを使えば、治療に直結しない五十肩、足関節捻挫といった病歴病名を使わなくなります。運動器エコーを外来診療で使いこなせば、必然的に解剖学と整形外科学の知識が飛躍的に向上します。さらに診断ばかりでなく、その場で即病態に合わせて治療し、瞬時に痛みを取り去ることができます。これでも「まだレントゲン」でしょうか。

学問寛仁～整形外科診療のパラダイムシフト～

プローブを痛いところへ当てれば大量の情報が目に飛び込んできます。多くの情報を得る、これを『学』と言います。得られた情報に臨床的な意味があるかないか瞬時に判断する、これを『問』と言います。「学問」の語源は中国古典である易経から引用されていますが、原著には「学問寛仁」という言葉が使われています。学問とは、『寛』寛大な心で、『仁』思いやりを持って世のために尽くすものである、そういう意味です。

今年の7月4日（土）、5日（日）、秋田で第28回日本整形外科超音波学会を開催します。演題締め切り日を延期する学会は開催する価値がない、常日頃からそう思っているのでプレッシャーはありましたが、お陰様で3月23日演題締切日で例年の3倍を超える演題登録がありました。講演は総合診療医、消化器内科医、放射線科医、リハビリ医（海外からの招待講演）、そして理学療法士と整形外科医が一人もいません。運動器超音波が整形外科以外でも大ブレイクしていることを知っているからです。超音波診療について広く知ってもらう目的で、『障害と闘う子供たち』、『スポーツ活動をする子供たち』、そして『将来医師を志す子供たち』を対象に、ボランティアによる3つの社会貢献活動を同時開催します。興味ある方には、是非ご協力いただければと思います。語りつくせない運動器超音波の魅力は、ちょっとヤバイ学会HPに紹介しています。

HPアドレス：<http://jsou27th.actioforma.net/>

「行ったことがない県」全国第2位の秋田県、今回を逃すと一生訪れる機会を失う？かもしれません。皆さんのお越しを心からお待ちしています！

！！地域医療オープン・ラボNews Letter原稿募集！！

地域医療オープン・ラボでは、自治医大の教員や卒業生の研究活動を学内外へ発信するために、「自治医科大学地域医療オープン・ラボNews Letter」を定期的に発行しています。

<http://www.jichi.ac.jp/openlab/newsletter/newsletter.html>

☆ 自治医大の教員や卒業生の研究活動をご紹介ください

☆ 自薦・他薦を問いません

☆ 連絡先：地域医療オープン・ラボ openlabo@jichi.ac.jp